

IV 学校研究推進計画

1. 研究主題 自分の力で学ぶ子の育成

2. 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善が必要であるとされている。これからの予測困難な時代に対応できる人材育成を目指しての授業改善が求められている。

昨年度、本校は「問題を解決する子の育成」を掲げ、研究を進めてきた。研究成果と課題をあきらかにした結果、単元デザインによる授業づくりや単元を通したふり返りによって、少しずつ問題を解決できる児童の姿が見られるようになった。しかし、まだまだ指示待ちの児童が多いことや自ら進んで学習に取り組める児童が少ないことが判明した。そこで、研究主題を「自分の力で学ぶ子の育成」と設定することにした。

本研究で「自分の力で学ぶ子の育成」と主題を設定するにあたり、本校児童の育成すべき凡用的な資質・能力「学びに向かう力」と関連付けて捉えた。これらの資質・能力を育てるために、「自分の力で学んだと実感できる『単元デザイン』」「自分の学びを自覚できる『ふり返り』」を設定する。教師は「自分の力で学んだと実感できる『単元デザイン』」を設定する為に、導入で単元のゴールや共通の軸を児童と共有したり、展開で個別最適な学びや協働的な学びを設定したりする。展開部分の1時間の流れでは、児童が目標を立て、それを達成するために自己決定を行い、教師は児童が自ら学ぶ場や時間を確保する。自ら学んだことがどうであったかを毎時間ふり返り、単元の終末で単元全体のふり返りを行う。このような「自分の学びを自覚できる『ふり返り』」を通して、児童が自分の学びの成長を感じられるようにする。これらについて、教科横断的な視点で授業改善を図ることで、「自分の力で学ぶ子の育成」が促進し、児童自身が自己調整能力を高められるようにし、本校の目指す児童の姿「自ら進んで課題解決に向かう かしこい子」「粘り強く取り組む たくましい子」を育むことを目指していく。

3. めざす児童の具体的な姿（育てたい資質・能力「学びに向かう力」）

- ・単元のゴールや本時の課題解決のために、自己決定をしながら自ら学んだと実感できる児童
- ・毎時間のふり返りを通して自分の学びを自覚する児童

4. 研究仮説

児童が「自分の力で学べた」と実感が得られるように授業改善を進めることで、学びを促進し、粘り強く課題に取り組みながら「学びに向かう力」を育成することができ、自分の成長を自覚する姿が見られるようになるであろう。

5. 研究の重点と具体的な手立て

重点①自分の力で学んだと実感できる「単元デザイン」

- ・単元のゴールの姿を具体的な児童の言葉で明確に示し、単元をデザインする。
- ・学期に1つ以上作成する単元デザインシートに、委ねる時間を明記する。委ねる際に「内容」「人」「場所」について自己決定させ、児童が学びを実感できるようにする。
- ・「相互授業参観」を行い、単元デザインシートに設定した本時の姿を参観し、それまでの学習を委ねた場面の取り組みについて交流する。

重点②自分の学びを自覚できる「ふり返り」

- ・児童が自分の学び方をふり返ることができるように、授業者が決めた教科において毎時間のふり返りを行う。よりよい学び方に気づけるように、学級や学校で広める場を作る。
- ・月末に対話的な校内研修会を開き、自己決定の場の設定やふり返りの方法（一覧ワークシート・タブレット等）についての進捗状況を交流する。さらに、改善に向けて取り組み内容を考えて共通実践につなげる。

めざす児童の姿と検証方法

以下の方法で取組の検証を行い、PDCA サイクルを意識して新たな実践につなげる。

検証方法1 「活用問題」

- ・活用調査問題で通過率 活用 75% 以上

検証方法2 「授業参観シート」

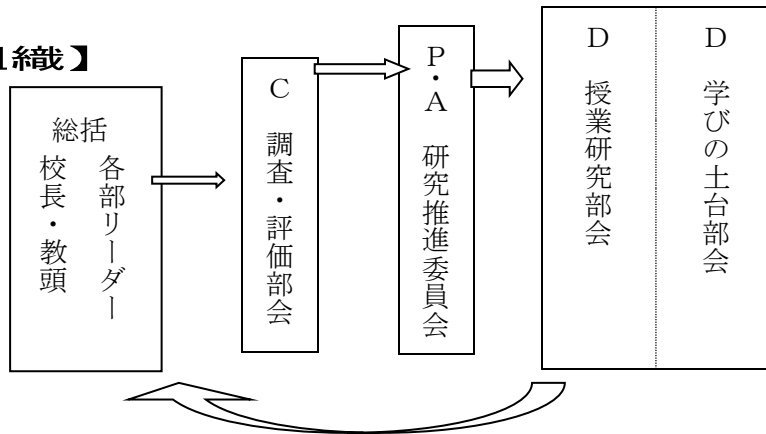
- ・「相互授業参観シート」を基に児童に委ねた時間の中で、取り組みの効果として次の姿が表れているかどうか検証する。（自己決定をする姿、自分の学びをふり返る姿）

検証方法3・4 「児童アンケート」「教員アンケート」

- ・児童と教師の意識調査の結果を分析し、組織的な実践の質を検証する。

6. 研究組織と研究内容

【研究組織】



【研究内容】

総括		
C 調査・評価部会 ◎教務主任 (小林) (板谷) (級外)	国・県・町学力調査の処理・分析・対策	小林
	各取り組みの検証 (児童・教員アンケート等)	板谷
	活用問題通過率の調査・分析	小林
	研究授業整理会の準備・運営 等	小林
PA 研究推進委員会 ◎研究主任 (石橋) 研究副主任 (岡山) 教務 (小林) 授業研究 (真木) 学力向上 (上田)	学校研究・研修全般の計画推進および統括	石橋 岡山 真木
	学習体制作りの計画・推進	石橋 上田
	学力向上ロードマップの計画・推進	石橋
	研修支援 (若プロ・OJT 担当)	小林
D 授業研究部 ◎授業力向上担当 (真木) (岡山) (宮元) (三宅孝)	授業の取組に関するスキルタイム集会 企画・運営	宮元
	単元デザインシートの作成・活用・推進	岡山
	研究の重点の周知と要請訪問の役割分担	三宅
	学習目標の設定・周知・状況把握・振り返りシート 児童への啓発 (学習目標 目指す授業 等)	真木
D 学びの土台部会 ◎学力向上推進 (上田) (桶成) (山本) (北野) (稲實)	6星パワーの啓発・定着の徹底 スキルタイム集会の企画・運営	上田
	漢字や計算の力の定着	山本 稲實
	スキルタイムの活用	桶成
	基本的生活習慣・学習習慣の確立	北野

7. 研究年間計画 （別紙「学力向上ロードマップ」参照）

8. 校内若手教員研修計画書 （別紙 「若手教員早期育成プログラム（鹿西小版）」参照）